

美術館のコンセプト～基本構想から（案）

市民が集い交流し、創造力や文化、歴史、産業を育む全く新しい文化芸術の創造・発信拠点  
～「川口の美」と「新しい美術施設」～

# 新しい美術施設の三つのエリア（案）

大きく3つのエリアを設けます。

## 「アート」エリア

100万人を超えともいわれる世界最大規模の人口を誇った江戸は、世界最大の消費地でもありました。日々高まり続ける日常物資への需要に応えるべく、川口では舟運を利用した江戸向けの商品の開発、生産や流通が盛んになりました。この頃から、川口の代名詞ともなっている鑄物工業や植木産業などが発展しはじめ、「ものづくりのまち」「職人のまち」としてのその礎が築かれました。

江戸の消費は川口に大きな富をもたらしました。その富は川口に暮らす人々にゆとりと心豊かな生活をもたらしたばかりでなく、芸術作品のコレクターを生み、様々な美術品が川口に集まってきました。

しかし、これら貴重なコレクションは世代が変わる度に少しずつ散逸し、いずれは無くなってしまいます。市には適切な管理・保存・展示を行う施設がないために、寄贈を受けられない状況が続いています。

本市では、これらを散逸させないためにも寄贈を受け入れる体制＝「収蔵施設」「展示施設」が必要になっているのです。

歴史は絶え間なく進んでいきます。その歴史に失われてしまう繊細なもの、すなわち本市、及び本市周辺地域固有の風土や歴史、そこで培われた産業や文化こそが「川口の美」であると定義し、市民から寄贈された市民共有の多くの財産とともに守り、伝える「アート」エリアを計画します。

## 「ものづくり」エリア

江戸時代よりものづくりが盛んである本市では、多くの企業と職人を生み隆盛を極めました。いまなお市内で品質の高い市産品を生み出し続けています。

一方、ものづくりによる本市の隆盛は美術品コレクターとともに多くのアーティストも生み出しました。

しかし、産業とアートは直接的交わることはなく、それぞれが独立しています。

新しい美術施設では、これらものづくり産業とアーティストをつなぎ、新たな価値（商品・作品）を生み出すための交流や共同制作などの企画・推進を行います。

具体的には、2つの役割が考えられます。

ひとつは、新たな商品開発に際し、アートの視点を加えることで商品の付加価値を高めることを目指します。一例を挙げれば、鑄造技術、木型技術、とデザイン性を融合した家具（インダストリアルファニチャー）などです。また従来の商品やサービスのPR方法にアートの視点を加えることで訴求性を高める効果も考えられます。

二つ目は、アートもまた市産品です。市内アーティストが生み出す作品をホテル、マンション、店舗、事務所などに売り込むことで、アートを商売にするアーティストを増やすことです。

専門のコーディネーターを置き、産業とアート双方の活性化を目指して「ものづくり」エリアを計画します。

## 「イベント」エリア

アートの表現方法として、メディアアートなど映像を使ったアートが世界的に主流になりつつあります。海外のアートフェアなどでも、メディアアート系のアーティストを紹介するブースが数多くあります。しかし国内にある美術館でこれらメディアアートの規模感、表現方法に対応できる美術館はまだ少数です。

映像表現とともに、大きなオブジェの展示、空間全体を使ったインスタレーションなど、様々な表現方法に対応した展示室を作ることは、新しい美術施設としては必須です。

しかし、常にこれらアート作品が展示されている状況ではありません。

「イベント」エリアでは、メディアアートへの対応、インスタレーション展示会場のほか、映画、演劇、音楽コンサート、コンベンション会場、パーティ会場など、本市に不足している施設を補完できる多目的なエリアとして計画します。

# 三つのエリアの機能（案）

アートギャラリーアトリアは専門化させ、美術館機能の教育普及に関わる機能を持たせます

## デザインの機能

建物内外のデザインについては、川口らしい街の賑わいを演出する空間デザインとし、今までにない斬新でデザイン性の高い建築とします。外観や展示室だけでなく、内部諸室（トイレ・階段・各所サイン）にいたるまでデザインの統一をはかるものとします。また、川口の歴史ある造園庭園技術・鑄造技術を活かした空間デザインを試みます。

### 「アート」エリア

親しむ事業  
～美術館機能～

- ・収集作品（寄贈・寄託が中心）を安全な環境の下で適切に保管管理。コレクターの寄贈の受け皿の役割を担う
- ・収集作品や関連する資料を取り扱う調査研究室を整備
- ・収集作品の常設展示、及び企画展、他の美術館の連携した巡回展の開催
- ・広報（情報発信）

### アトリア

育む事業  
～教育普及～

- ・市民のアートサークルの発表の場
- ・学校教育における美術の発表の場
- ・展示作品への理解を深める講座
- ・創造工程を見学できる機会（アーティストインレジデンス）

## 『新しい美術施設』

各エリアは動線を配慮し、美術施設全体に有機的な人の流れを生み出し、市民が集い、交流し、美術文化に親しみ、新たな創造を生み出す場を作り出します

### 「イベント」エリア

集い交流する空間  
～新しい表現に対応した多目的ホール～

- ・映像や空間そのものを表現とするアートに対応
- ・コンベンション機能やパーティ会場に対応
- ・その他エンターテインメント性を有する事業に対応
- ・誰もが気軽に立ち寄り、アートに関する情報に触れながら交流するカフェを併設
- ・広報（情報発信）

### 「ものづくり」エリア

創造発信する事業  
～産業とアートのコーディネート機能～

- ・産業とアート、またそれぞれの作り手をマッチング
- ・市産アート作品の販路確保
- ・展示品等に関連するグッズ製作
- ・地域活性化に繋げるインダストリアルアートの提案
- ・市内産業とアーティストとの連携により開発される製品を発信するミュージアムショップ
- ・広報（情報発信）

## 三つのエリアの構成（案）

### 「アート」エリア

#### 美術館機能＝「アートエリア」

コレクターの寄贈作品、寄託作品、収集作品の収蔵に十分な空間性能をもった収蔵庫、及びその付帯施設。また、本市で活躍するアーティストの作品の展示、他の美術館と連携した巡回展にも対応できる設備を有します

#### ■収集・保存

収蔵資料・寄託資料の保管を行います。変温恒湿環境に段階的に搬入できるよう搬出入動線に配慮します。日本画、油絵、借用資料で異なる湿度調整ができるように複数の収蔵庫を整備します。また火災や地震に対する安全性、入退場管理システムや監視カメラによるセキュリティ環境の整備、日射や湿気の影響を防御、断熱対策も考慮します。二重壁構造、省エネに配慮した温熱制御、照明設備等に配慮します。

#### ■調査・運営

事務室・学芸員室は開放的なワンルームスペースとし、面積の利用効率を考慮します。壁面をガラス張りにするなど市民にオープンなワークスペースとします。館長（ディレクター）執務室も含め事務・学芸員の中で活発な議論を促します。また、倉庫には図録等の保管用に集密書架を設け、資料の蓄積を行います。

#### ■展示

展示ブースは大きく2つのゾーンに別れます。

・**「プロローグ」**：川口の歴史や風土、美術館のなりたちや市内で活躍するアーティスト、そして寄贈、寄託したコレクターの方々を映像を使いわかりやすく紹介します。展示全体のプロローグの役割をもつブースです。

また「ものづくりショールーム」との動線を考慮することで、「川口の美」をプレゼンテーションするスペースとします。

・**「展示室」** 塗師祥一郎コレクション、田原家コレクション等、寄贈作品全般を交互に展示します。企画展も行えるようにフレキシブルな展示空間とします。開放的なスペースとテーマ展示が可能な個室を組み合わせることで、借用作品による特別展・他機関との共催の巡回展など、様々な展覧会に対応します。また、「イベントエリア」との動線を考慮することでさらに大規模な企画展の開催も可能となります。

・アート図書室：展示室の他に、美術専門書・情報誌の収集公開を行う図書室を設けます

### 「ものづくり」エリア

#### 産業とアートのコーディネート機能＝「ものづくりエリア」

市内産業とアーティストのコラボレーションによるデザイン製を高めた製品開発を行い地域経済活性化につなげる試みを行います。市内産業のPR＝ショールームスペースを設け、情報検索やマッチングの為のミーティングスペースを設けます。数名の専門スタッフが常駐します。市民が利用できるライブラリーを設け、美術を身近に体験できるようにします。

また併設するショップでは展示作品に関連するグッズや、オリジナルグッズの販売をします。

展示の「プロローグ」エリアとの動線を考慮します。

### 「イベント」エリア

#### 新しい表現に対応した多目的ホール＝「イベントエリア」

アート作品が展示された中でのイベント、会議、宴会は、様々な企業、市民、民間団体が利用でき、しかも企画展示ができる多目的且つ高度な機能的なスペースとします。市民が集まり、交流するエンターテインメント性がある場の提供を行います。多目的ホールは200名程度のレセプションに対応できる規模を確保します。展示室としての機能・設備（照明、恒温恒湿空調設備）を備え、企画展の展示室としても活用します。2室に分割しての利用も考慮します。プロジェクター（プロジェクションマッピング対応）、音響・照明設備を設け、様々なアート、演劇やコンサートの他、多目的な貸会議室として国際会議などにも対応できるようにします。エントランスホールなど一体化しての利用も考慮し、展覧会のオープニングパーティーなども行います。イベント利用がない時はラウンジとして公開され、併設するカフェと共に市民が憩いの場となります。

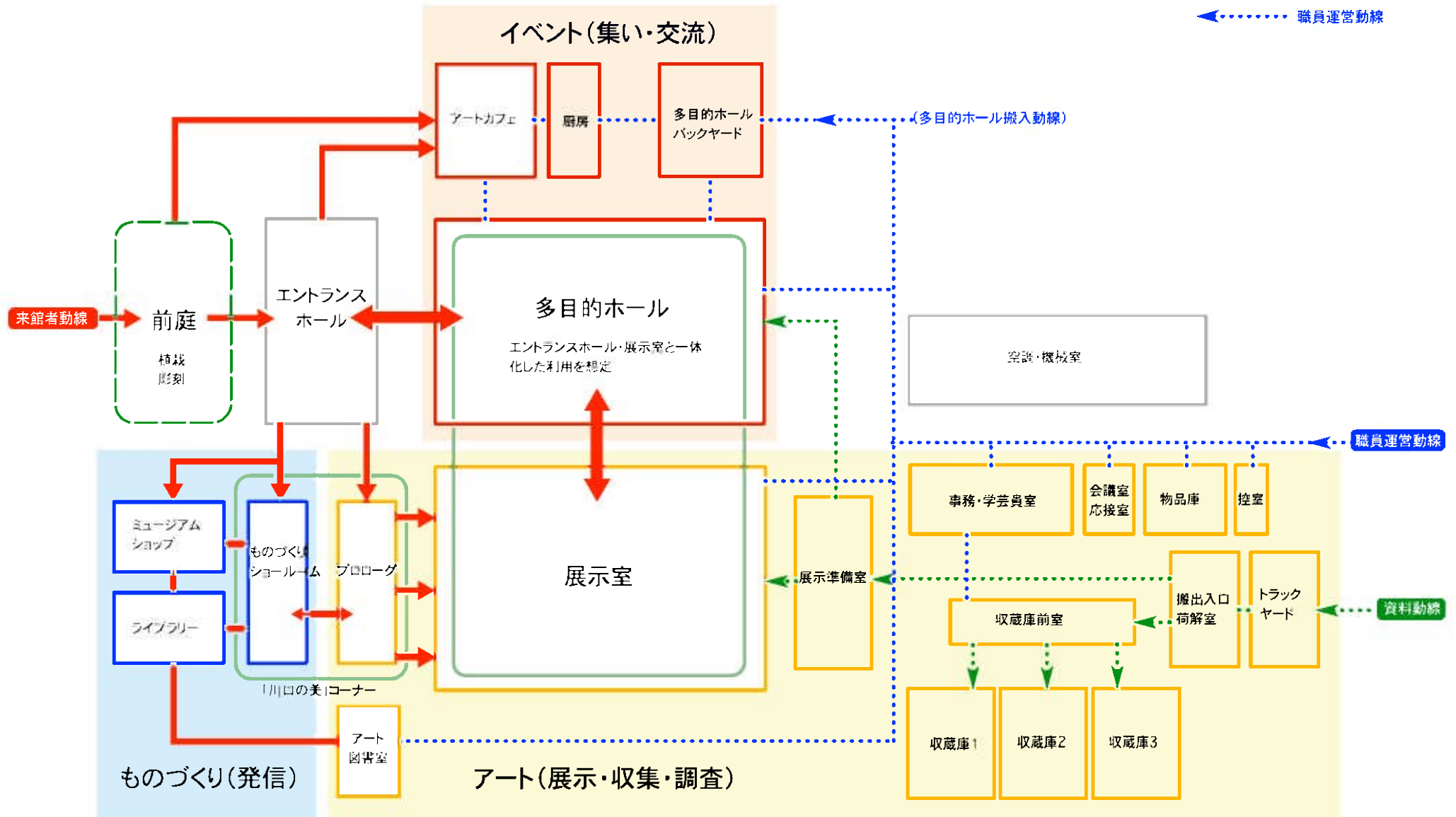
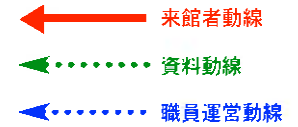
# 主な諸室の概要 (案)

公開・非公開	無料・有料	エリア	ゾーン	室名	用途	必要機能	規模(参考)	備考		
非公開		アート	収集・保存	トラックヤード	作品の搬出入	搬入用トラック(4台基準)を収納 換気ガス処理の換気施設を設け、外気の流入に注意(シャッターの設置等) 虫害を防ぐための他の搬出入口(飲食物・ゴミ等)とは区別する トラックヤードからエレベータに至る動線に配慮。十分な広さを確保	約450㎡	うらわ美術館: 約400㎡ (トラックヤード含まず)		
				荷捌場/装幀場	作品のや資料の梱包・梱包を行う					
				収蔵庫前室	収蔵庫に搬入する資料の点検 温度湿度調整室	収蔵庫と同レベルの恒温恒湿空調機能、消火機能、収蔵庫扉を設ける 資料の損傷が可能な機能を含む				
				収蔵庫1(日本画)	収蔵資料・寄託資料の保管	恒温恒湿空調機能、消火機能、収蔵庫				
				収蔵庫2(洋画)	収蔵資料・寄託資料の保管	恒温恒湿空調機能、消火機能、収蔵庫				
				収蔵庫3(借用品)	収蔵資料・寄託資料の保管	借用品保管に対応する特別収蔵庫 形態は借用品に合わせた構造とする				
			調査・研究	事務・学芸員室	事務職員・学芸員の執務室	開放的なスペースとし、効率的な業務利用効率を考慮 館長(ディレクター)の執務室も含む	約150㎡			
				会議室	職員ミーティングスペース	応接室の機能も備える				
				職員控室		職員・監視員の休憩室・控室(更衣室)・給湯室				
				物品庫	事務機能のための倉庫	美術書架を確保				
公開	無料	アート	展示・公開	フロロログ	川口の「美」の紹介コーナー	美術館の成り立ち、川口の美術界、コレクターの紹介 映像等を使いわかりやすく説明	約650㎡	うらわ美術館: 約750㎡ (展示室のみ)		
				展示室	所蔵資料と借入資料の展示公開	油彩画、日本画、掛軸資料等の展示、寄託資料を中心とする 日本画資料には展示ケースを設ける 借入作品による特別展・特設展との共催の巡回展にも対応 様々な作品、展示スタイルに対応できるよう十分な天井高さ、床強度を確保 恒温恒湿空調機能、消火機能を有す				
				展示準備室	展示準備の作業	展示のための什器、備品の保管 展示室との動線の配慮				
				アート図書室	美術専門書・情報誌の収蔵公開	書架・リファレンスコーナー・閲覧机 ものづくりコーナーのライブラリーとの動線に配慮				
	無料		ものづくり	創造支援	ショールーム	川口のものづくり紹介コーナー	数名のスタッフが常駐・映像やサンプルで川口のものづくりを紹介 打ち合わせが可能なブース、講座を併設 展示のフロロログブースとの動線に配慮		約200㎡	
					情報発信	ショップ	ミュージアムショップ			アートゾーンと連携したミュージアムショップ オリジナルグッズの販売
						ライブラリー	情報収集、発信のライブラリー			図書資料だけでなく、映像資料も含め川口の文化伝承や収蔵作品の アートライブラリー ショップ、カフェとの動線に配慮
	有料/無料		イベント	交流	多目的ホール	多目的利用可能なホール	市民が集い、交流する場。コンベンション機能を備える。会議利用も可 映像設備を設けプロジェクションマッピング等に対応 企画展示にも対応できる展示設備を有する。カフェとの動線に配慮		約700㎡	フレンドシア: 約20㎡ (ホールのみ)
					バックヤード	多目的ホールの控え室	多目的ホールの控え室。倉庫として椅子やテーブルを収納			
	非公開			イベント	集い	厨房	カフェ・レストランのための厨房		多目的ホール使用時のケータリングのサービススペースとしても活用	約150㎡
アートカフェ・レストラン		多目的ホール付属のカフェ・レストラン				ライブラリー、ショップとの動線に配慮 混雑の混雑を考慮し配線を検討する				
公開	無料	共用		エントランスホール		館内案内・発着準備・ロビー空間、ロッカー コンベンションホール、ショップ、カフェとの動線に配慮 開放的に作り来訪者の動線を促す	約200㎡			
				トイレ・授乳室 教習室		多目的トイレ(平いす対応)を含む				
非公開				廊下・エレベーター 機械室		搬出入用エレベーター バリアフリーに対応	約600㎡			


必要床面積: 約3300㎡ (約1000坪) ※うらわ美術館: 延床面積2349㎡

# 動線計画（参考例）

美術施設の動線には、来館者動線、職員運営動線、資料動線（作品の搬出入等）の3つの動線があります。これらの動線を効率よく交錯しないよう計画します。



## 多目的ホール類似施設(参考例)

概要	イメージ (画像はHPより)	ホール名称・面積	使用料金	主な利用事例
<b>スパイラル</b> 用途:複合文化施設 東京都港区 竣工1985年 設計:横文彦		アトリウム:160㎡ ギャラリー:100㎡ エスプラナード60㎡ ※カフェ:170㎡併設	1,080,000円(7日) ※アトリウム+ギャラリー +エスプラナード利用の場合 ※カフェ貸切540,000円(720~23時)	ファッションデザイン展 絵画展 各種イベント
<b>東京都現代美術館</b> 用途:美術館 東京都江東区 竣工1995年 設計:柳澤孝彦		エントランスホール:1582㎡ ※サンクンガーデン1050㎡(屋外) ※水と石のプロムナード690㎡(屋外) ※中庭366㎡(屋外)	2,160,000円(7日)	ファッションショー レセプション 各種イベント
<b>東京国際フォーラム</b> 用途:複合文化施設 東京都千代田区 竣工1997年 設計:ラファエル・ヴィニオリ		ロビーギャラリー:700㎡(350㎡+350㎡)	945,000円(7日) ※リハーサル・準備撤収時は 472,500円(7日)	絵画展 写真展 会議受付 各種イベント
<b>東京国立博物館 法隆寺宝物館</b> 用途:博物館 東京都台東区 竣工1999年 設計:谷口吉生		エントランス:251㎡ ※テラス ※中二階、二階部分も一部使用可	1,500,000円程度(7日) ※金額決定には要打合	パーティー (立食100人 着席50人) 各種イベント
<b>国立新美術館</b> 用途:美術館 東京都港区 竣工2007年 設計:黒川紀章		エントランスホール:2700㎡	2,600,000円(7日)	レセプション 新作発表会 ファッションショー 講演会 各種イベント